

北九州市の 震災対策

活断層調査の結果と 震災対策基本方針の策定



地震の種類と北九州市に影響を及ぼす地震

地下岩盤の活動に伴う地震

- 最大規模はマグニチュード6クラス(市内の震度は5強～6弱)
- 日本では何処でも起こる可能性がある。

活断層による地震

- 調査の結果、市内活断層の差し迫った活動の危険性はない。

プレート境界型地震や、火山活動による地震

- 発生箇所が特定され、いずれも震源は遠方となる。
- 市内の震度は5弱程度まで
- 大災害を招く可能性は低い。

北九州市で想定すべき地震

マグニチュード6クラス(震度6弱)の地下岩盤の活動に伴う地震

想定地震が起こったら!!

マグニチュード6クラスの地震が起きたら、北九州市ではどのような被害が発生するのでしょうか?

地震の想定

発生時刻/冬の夕刻
震源位置/小倉北区北東部
規模/マグニチュード6.5



建物被害等

全壊/381棟
半壊/1,194棟
出火件数/11件



人的被害

死者数/53人
負傷者数/1,889人
避難者数/2,037人



ライフライン被害

上水道管 11か所
下水道管 0か所
都市ガス管 0か所
電柱 1か所
電話柱 1か所



福岡県指定「地震に関する防災・アセスメント調査報告書」より

地震の豆知識

マグニチュードと震度の違い

地震のエネルギーの大きさ(規模)をマグニチュード、各地域での地震の揺れの大きさを震度といいます。一般的にマグニチュードが大きいても、震源が深い場合や深い場合は震度が小さく、逆にマグニチュードが小さくても、震源に近い場合や浅い場合は震度が大きくなります。



マグニチュードと地震のエネルギー

マグニチュードが0.1大きいとエネルギーは1.4倍、0.2では2倍となります。つまり、マグニチュードが0.2大きくなることにエネルギーは2倍になるので、0.4大きくと2×2=4倍、0.6だと2×2×2=8倍、1.0だと2×2×2×2×2=32倍となります。

面積がエネルギーを表す場合の割合

M6.0 → M6.5 → M7.2

震災対策基本方針について

本市の自然的・
社会的状況に応じた
災害に強い安全・安心の
まちづくり

方針の
目標は？

これまでの取り組み

阪神・淡路大震災を教訓に取り組み、平成7年～8年度で

- 行政等の危機管理体制の確立
 - 市民の自主防災力の強化
 - 災害原因の科学的調査と計画的な防災都市づくり
- を視点に、災害発生時の応急対策を中心に取り組んできました。一方、防災都市づくり等地震による被害の予防対策については市内活断層等の調査結果に基づいて計画的に実施することとしました。

方針作成で注意した点

阪神・淡路大震災の教訓、市内活断層の調査結果や本市で想定される地震の状況を踏まえ、

- 中長期的な視点での取り組み
- 実施中の事業の中の震災対策に役立つ要素を活用した施策の推進
- 人命の安全確保を前提とした物的被害の軽減や災害時以外でも使える多目的性をもった防災施設など効果的で効率的な施策の推進
- 地域との連携や広域的な応援体制の推進などに配慮しました。

具体的
方針

都市構造における防災化の推進

- 計画的な町づくりによる防災化
- 避難場所などのオープンスペース等の確保
- 延焼遮断帯の形成
- 緊急輸送道路網の確保
- 密集市街地等災害危険区域対策など

災害時における生活空間 及び都市機能の確保

- 消防署所などの防災拠点の機能確保
- 上下水道などのライフライン施設の強化
- 既存施設等の耐震性の確保など

災害時における 対応力の強化

- 初動時の情報収集体制の確立
- 地域レベルの防災体制づくり
- 災害対策本部の機能強化・消防力の強化
- 避難地・避難所の整備・備蓄食糧など

地域を越えた広域的な 連携による災害対応の強化

- 広域的な応援協力体制の確立
- 国際協力の推進
- 近隣関係機関との連携強化



震度の目安

| | | |
|------------------------------------|---|---|
| 震度 0 | 人は揺れを感じない。 |  |
| 震度 1 | 室内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。 |  |
| 震度 2 | 室内にいる人の多くが揺れを感じる。つり下がっている電灯などがわずかに揺れる。 |  |
| 震度 3 | 室内にいるほとんどの人が揺れを感じ、棚の食器が落ちたことがある。 |  |
| 震度 4 | 眠っている人のほとんどが目覚めます。部屋の不安定な置物が倒れる。歩行中の人も揺れを感じる。 |  |
| 震度 5 <small>弱</small> | 家具の移動や、食器や本が落ちたり、窓ガラスが割れることもある。 |  |
| 震度 5 <small>強</small> | タンスなど重い家具や、外では自動販売機が倒れることがある。自動車の運転は困難。 |  |
| 震度 6 <small>弱</small> | 立っていることが難しい。壁のタイルや窓ガラスが剥れ、ドアが開かなくなる。 |  |
| 震度 6 <small>強</small> | 立っていられず、はわないと動くことができない。重い家具のほとんどが倒れ、戸がはずれて飛び出す。 |  |
| 震度 7 | 自分の意志で行動できない。大きな地割れや地すべり、山崩れが発生する。 |  |

地震が起きたら

| | | |
|----------------------------|-----------|---|
| まず、わが身の安全を図る | 1 |  |
| すばやく火の始末を（ガスの元栓をしめる） | 2 |  |
| 非常脱出口を確保する | 3 |  |
| 火がでたら、まず初期消火をする | 4 |  |
| あわてて戸外に飛びださない（電気のブレーカーを切る） | 5 |  |
| 狭い路地、塀ぎわ、がけや川べりに近寄らない | 6 |  |
| 山崩れ・がけ崩れ津波に注意する | 7 |  |
| 避難は早めに、荷物は最小限に | 8 |  |
| みんなが協力し合って応急救護をする | 9 |  |
| 正しい情報を入手する（携帯ラジオなど） | 10 |  |

問い合わせ先

北九州市 消防局 防災対策部 防災課（北九州市役所3階）

〒803-8501 北九州市小倉北区城内1-1 TEL.093-582-2110 FAX.093-582-2112